

発行／出雲市文化環境部環境政策課減量推進係 E-mail:kankyou-seisaku@city.izumo.shimane.jp

〒693-8530 出雲市今市町70 ☎0853-21-6988 FAX 0853-21-6597

## 3R促進ポスター コンクール作品紹介

平成25年度に環境省が「循環型社会」の実現に向けて、3R（リデュース・リユース・リサイクル）の促進に関する啓発活動に資することを目的に募集した「3R促進ポスター」の応募作品を前回に引き続きご紹介します。



高松地区 永井 みづき さん



高松地区 松尾 遥弘さん



# TOPICS! 出雲市



## きれいな宍道湖を私たちの手で守りましょう!

～マナーを守って、ごみを減らそう～



宍道湖周辺でのごみ拾いの様子

また、6月は環境月間であり、市内各地区で環境イベントや清掃活動を実施していただきました。

拾ったごみの中には、たくさんの家庭ごみがあり、中には、ペットボトルなどリサイクルできるものもありました。「ちょっとなら大丈夫」という軽い気持ちで捨てられたごみも、集まればたくさんのごみの山となります。

捨てられたごみは、このようにたくさんの方の手を借りて回収されます。

ごみは「捨てる」のではなく、「持ち帰る」ようにしましょう。また、さらに「リサイクルする」という意識を高めていただき、ごみの減量化へ皆様の引き続きのご協力をお願いします。

6月8日（日）に、「平成26年度 ラムサール条約湿地 中海・宍道湖一斉清掃」として湖周辺のごみ拾いを実施しました。

当日は小雨が降る中、出雲市内の宍道湖沿岸では2,014人の方に参加いただき、約1時間かけて2.98tのごみを拾っていただきました。



拾っていただいたごみの一部



# 教えて！ ごみの出し方！

このコーナーでは、知っているようで知らなかったごみの出し方や、つつい起こつてしまうトラブルなどをテーマに、分かりやすく解説していきます。

今回は・・・

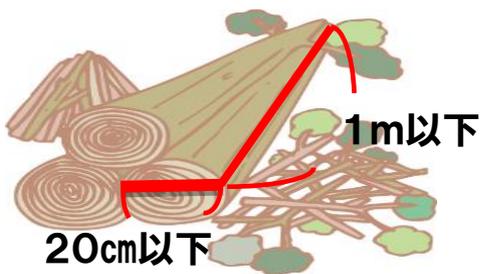
剪定枝を可燃ごみで出す時は、  
大きさによって  
出し方が変わりますよ！



可燃ごみの「ごみ袋」に入れて出す場合は、  
直径 5cm 以内長さ 50 cm 以内にしてください。



可燃ごみの「収集券」を張って出す場合は、  
枝の直径を 5 cm 以内、束ねて直径 50 cm 以内、長さは 1m 以内にしてください。



出雲エネルギーセンターへ直接持ち込む場合は、  
最大直径 20cm 以下かつ長さ 1m 以下にしてください。

※搬入する場合は、最大積載量 2 トン以下の車両で 1 日 2 回までです。

# 剪定枝粉碎機を無料で貸し出します

剪定した枝は、前頁で紹介したように、可燃ごみとして出すことができますが、ごみ減量を推進するため、市では、市民の方を対象に剪定枝粉碎機を無料で貸し出しています。ぜひご利用ください。

まずは…

- ①環境政策課へ電話で予約をしてください。
- ②市役所まで粉碎機を取りに来てください。申請書の記入が必要ですので、印鑑・本人確認ができるもの（免許証など）を持ってきてください。



## いざ、作業開始!

①

貸出用のゴーグル・皮手袋を着用しましょう。

（軍手は、巻き込まれた時、抜けにくいので使用しないでください）

②粉碎機に投入できる木の太さは、最大直径で2.5cmまでです。

軍手を使用しないでください



## ②

粉碎機の投入口は、狭いのでなるべく枝わかれしているところは、切り落としてください。剪定時に枝を落とすほうが、後の作業が楽になります！

粉碎機の投入口は、狭いです。



枝わかれしているところは、切ってください。



## ③

粉碎機の投入口へ、枝を投入してください。下に粉碎後の剪定枝が出てきますので、バケツや袋を備えておくと良いでしょう。



## ④

粉碎後の剪定枝は、土に混ぜると堆肥や土壌改良剤になります。また、庭木の根元や周りを覆うことによって、土の乾燥防止や雑草の抑制などに利用しましょう。

**④ 粉碎後の剪定枝は、ごみとしてはいささないでください。**



# 突撃！ごみ減量化レポート！

このコーナーは、皆様のご家庭や職場でごみ減量をどのように工夫して実践しているかを紹介する情報コーナーです。

今回は、出雲市ごみ減量化アドバイザーの澄川千恵子さんにお話を伺いました。

\*\*\*\*\*

澄川さんは、各コミュニティセンターや大社の浜遊自然館、斐川環境学習センター（アース館）などで、トールペイント（※）講師として活躍されています。

どういう物に、トールペイントされていますか？教えてください(^ ^)

「もともと趣味ではじめたトールペイントでしたが、続けていくうちに何か身近なものを活用できないかと考えるようになり、不用になった空き瓶やペットボトルなどにトールペイントをするようになりました。我が家では、おかげさまで捨てるものが少なくなり、楽しくエコ生活が出来るようになりました。」



【※トールペイントとは…木、布、ガラス、金属などあらゆる素材に絵の具で絵を描く、奥の深い楽しいクラフトのことです】



すごいですね！いつもならごみに出してしまう空き瓶がとてもすてきなインテリアに大変身ですね！

外国の宮殿に飾ってあるような、とっても上品なインテリアですね(^ ^)

こちらのすてきなカゴは何で作られた物ですか？

「はい、このピンクと青いカゴは牛乳パック、クリーム色のカゴは、お酒のパックを使って作りました。切り込みを入れて組みあげていますが、この形になるまでは試行錯誤の連続でした。

他にも結納の水引を使った羽子板飾りや扇飾り、使用済みの電球を装飾して雛人形も作りました。」



牛乳パックやお酒のパックを組みあげて作ったカゴ



電球にペインティングをした雛人形

おお！電球とは思えない(+o+)

スタイリッシュですね(^^)

澄川さんは市内の小中学校に講師としても出掛けておられますね！

「そうですね。トールペイントをとおして、子ども達とコミュニケーションをとっています。子ども達はいつも楽しみに

してくれているので、私もうれしく、やりがいを感じています」

澄川さんの素敵なアイデアを、みなさんに直接伝えていただけるだけでなく、人と人とのつながりも深めることができるなんて、環境教育のすばらしさを感じますね。参加されている児童の皆さんがうらやましいです！今後も、その溢れるすてきなアイデアで物の大切さをたくさんの方に教えてくださいね(^o^)/

無駄を無くす、スマートな生活が理想ですね！





# 働くオジサン! こんにちは!

このシリーズは、ごみ処理の現場で働いていらっしゃる職員さんから、市民の皆様へ生の声を伝えるためのコーナーです。

今回は、(株)すばる企画の首藤さんにレポートしました。

(株)すばる企画は長年にわたり佐田地域から排出されるごみの収集と処分を担っていらっしゃいますが、業務をすすめる際に何か困ったことなどはありますか？

「そうですね。佐田地域は冬季に雪がとても多く、そういう時期の収集作業はとて大変なんですよ。深い雪をかき分けてごみ集積箱にたどり着いても、箱の中が空っぽだったりしましてね(笑)。でも、佐田地域の多くの方は、ルールを守ってごみを出してくださいます。ただ、若干ですがルールの守られていないごみ袋を見かけることがありますね。」

それは、いけませんね！それは例えばどういうごみ袋ですか？

「一番多いのは重量オーバーのものです。もちろん、そのようなごみ袋は収集せずに残しますが、ごみ袋の持ち手が結べない程、ごみをたくさん袋に入れてガムテープが貼られているものがありますね。ほかには、古紙の収集も行っていますが、ひもの縛り方がゆるくて、収集中にバラバラになってしまうことがよくありますね。古紙はきちっとひもで縛っていただきたいですね。」



(株)すばる企画の首藤さんです。



(株)すばる企画の皆さんです。

収集作業する人のこともぜひ考えて欲しいものですね。他にも何かありますか？

「はい、昔に比べて少なくなりましたが、あき缶にたばこの灰が入っているものがあります。あき缶は資源ごみであることの意識を持つことが大切だと思いますね。」

おっしゃるとおりですね(^.^)さすがです(^.^)

今回は貴重な現場のお話を伺うことができ、本当にありがとうございました(^o^)/



# リサイクルは 先人に学べ！



シリーズ「リサイクルは先人に学べ！」は、江戸時代から昭和初期の私たちのご先祖様が生活の中で普通に行っていたリサイクルについて学び、現代の私たちがどのようにその知恵を生かすことができるか、考えてみよう！というコーナーです。

江戸時代は、ごみを減らすためのリサイクルではなく、「モノを大切に最後まで使う」という考え方により、リサイクル社会を生み出していったのです。それは単に貧しかったからだけではなく、先人たちの絶え間ない努力によるものだということも忘れてはなりません。

右の絵は「紙屑拾い」をしている人を描いたものです。江戸時代には、不要になった帳簿や紙製品などを、「紙屑買い」という古紙買い取り専門業者が適当な価格で買い取り、古紙問屋に売るというシステムがあったようです。

しかし、買い入れるだけの資本を持っていない人は、町中を歩き廻って、落ちていた紙を拾っていました。それを古紙問屋へ持って行き、わずかな日銭を稼ぎ、そのお金で最低限の生活ができていたようです。それほど、も



出展：「江戸名所図会」国立国会図書館



可燃ごみで出されたダンボール  
(エネルギーセンターのピット内の写真)

の価値が高かった時代であったと言えます。

現代も、新聞やダンボールはもちろんのこと、わずかな<sup>(※)</sup>雑紙も古紙としてリサイクルしています。しかしながら、依然として古紙を可燃ごみとしてだされることが多くあります。

先人のように、リサイクルの心掛けを、これからも持ち続けていけるよう、皆様のご協力をお願いします。

(※雑紙とは…菓子箱・食品の外箱・パンフレットやラップの芯など)



# ごみに関する エトセトラ



シリーズ「ごみに関するエトセトラ」は、私たちの生活の中に意外と身近にあるごみについて語る雑学コーナーです。今回も「ことわざ」の中にある「ごみ」についてご紹介します。

「ことわざ」とは、観察と経験そして知識の共有によって、長い時間をかけて形成されたものです。その多くは簡潔で覚えやすく、言い得て妙であり、ある一面の真実を鋭く言い当てていたりします。そんな「ことわざ」の中には「ごみ」を含んだものが案外たくさんありますが、決して悪い意味ばかりではありません。

今回は・・・

こはく ふかい

## 「琥珀は腐芥を取らず」

この「ことわざ」は三国志の時代のもので、琥珀（こはく）は塵を吸いつける性質があるが、汚れたごみまでは吸いつけないと信じられていたことから「清廉潔白な人物は、不正不義を身に近づけない、不正な金や物には手を触れない」ということのととえで、「どのようなときにも、身の潔白を保ち、信念を曲げないこと」ということだそうです。

琥珀は宝石ですが、静電気を起こしやすく、塵を吸い寄せる性質があるようで、この言葉は三国志の時代の呉の虞翻（ぐほん）という政治家が賄賂を断った時に使ったそうです。

私たちが日々精進し、徳の高い人間を目指していきたいものですね(^o^)/

